

学 年	高校1年	授業形態	A B C, D Eをそれぞれ同時展開。学級単位でローテーションを組んで授業を展開。週2時間。
テーマ	人間と人間の文化について学ぶ		
キーワード	社会と文化の相互関係		
概 要	<p>ある科学，芸術などの文化事象を取り上げ，それらが生み出された社会の価値観をその社会の歴史的特質，地域的特質などの視点に基づいて探求していく。その際，実験の再現やコンピュータでのシュミレーション，実際の演奏や鑑賞などの活動を通して一層理解を深めていくようにする。</p> <p>さらに，個々の生徒が興味・関心をもった文化事象について，その背後にある社会の価値観との関係を探求することで，その文化事象をその社会の価値体系に位置づけて説明できるようにする。</p>		

1. 学習の目標・ねらい

グローバル化が進む現代社会においては，それぞれの文化の違いを理解し，尊重することが求められており，異文化理解，国際理解の必要性がいわれている。文化はその文化固有の価値体系にもとづいて理解されなくては本当に理解されたことにはならない。自分の価値観ではなく，相手の価値観に立ってその文化を理解していくことが大切になるのである。そのためには，ある文化事象を現象的に見るのではなく，その背後にある社会との相互関係を理解してとらえることが重要になる。つまり，ある文化事象を生み出した社会の価値観に照らし合わせて文化を理解できるようになることが大切になるのである。

そこで，「L I F EⅣ 人間と人間の文化について学ぶ」では，科学や芸術などの文化事象を取りあげ，「なぜこのような文化事象が生み出されてきたのか」ということを生徒に探求させることによって，それらが生み出された社会の歴史的特質や地域的特質を明らかにし，その文化事象への理解を一層深めていくようにする。その際，実験の再現，操作活動，表現や鑑賞の活動など生徒が興味・関心をもって取り組めるような学習活動を設定する。さらには，個々の生徒が興味・関心をもった文化事象について，社会背景との関わりをもとに追究する活動を設定する。

以上のような活動によって，文化に対する理解の仕方を身につけるとともに様々な文化に対する理解を深めることができるようになる。また，生徒は様々な文化事象に出会った時にここでの学び方を生かし，自分のもつ価値観だけでなく，その文化が生み出された社会の価値観で理解したり，共感したりすることができるようになるようになる。と考える。

2. 育まれる能力

- 1 文化が生み出された社会の価値観をもとにその文化を理解しようとする態度
- 2 様々な文化に対する理解力
- 3 文化について興味・関心をもったことから課題を設定し，資料を収集・活用しながら追究し，まとめる能力

3. 中・高6カ年における学習の位置づけ

本講座では、文化を生み出している社会の価値観を探りながら理解することで、その文化を本当に理解できると考えている。このような文化のとらえ方は、第5学年での学習（異文化との交流体験）を行う上で大切なことであると考えている。また、中学校で培ってきたコンピューターリテラシーや問題解決能力は、個々の課題追究活動において十分に発揮されると考える。

4. 指導上の工夫とポイント

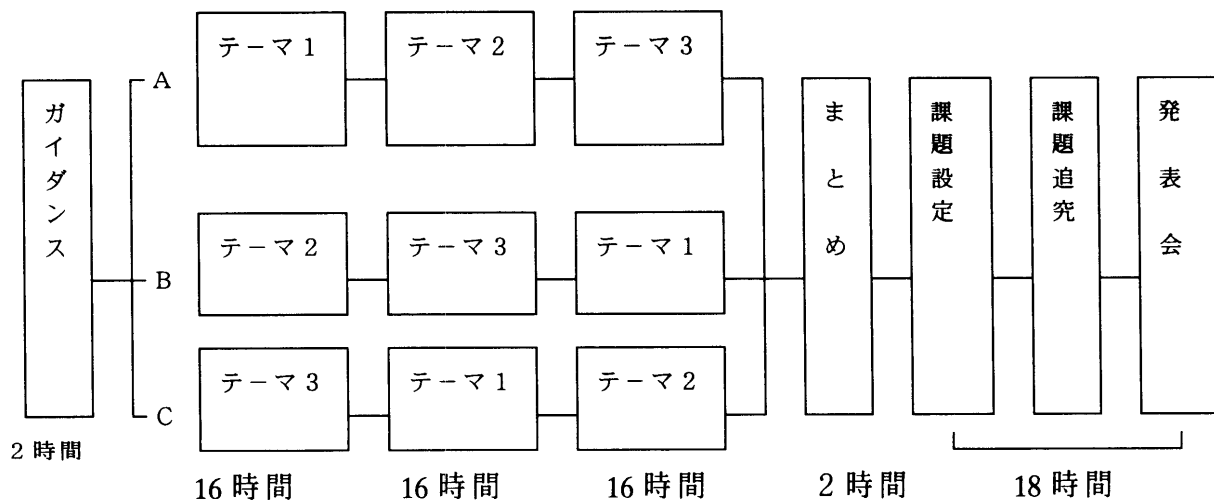
1 内容構成について

人間は古来から、自分の感情やものの見方・考え方を文字、色、形、音、数など様々なもので表現し、文化事象として残してきている。そこで、ここでは、自然科学・社会的文化事象、芸術的文化事象に焦点を当てて、次のような3つのテーマで学習していくことにする。

- 〈テーマ1〉 自然や社会の現象を論理的に探る
- 〈テーマ2〉 音によるコミュニケーション
- 〈テーマ3〉 造形によるコミュニケーション

2 学習の展開の仕方について（全70時間）

学習の展開は、各学級ごとにローテーションを組んで各テーマを学習していく。



5. 評価の観点

- 1 自分の価値観ではなく相手の価値観に立ってその文化を理解しようとする態度が見られるか。
- 2 文化が生み出された社会の価値観をもとにその文化を理解することができたか。
- 3 文化について興味・関心をもったことから課題を設定し、資料を収集・活用しながら追究し、まとめ、発表することができたか。

6. 年間指導計画

	単 元 名	学習のテーマ・ねらい	学習の具体的な内容
ガイダンス	《人の行動と文化》	<p>学習の目的・ねらい，内容，学習の展開の仕方について理解する。</p> <p>ある時代・ある地域に生活する人は，その時代，その社会の保持する文化に規定された行動をとる。そこで，生徒の身近にある伝統的な生活文化を具体的に取り上げ，そこに込められている伝統的な世界観や精神構造を理解し，今後の学習への意欲・関心を高める。</p>	<p>1. 文化事象とそれを生み出した社会の価値観との相互関係についての考え方を知る。</p> <p>2. 具体例をもとに理解する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「本来，正月は神となった先祖が山から里へ戻ってくるのを祝う行事だった」 「門松は里へ下りてきた神が宿る場所」「年玉や雑煮の餅は祖先の靈魂」など，季節の始まりにあたり，我々を守ってくれる神と饗応を共にすることで，神をもてなし，加護を願うのが正月の意味である。</p> </div> <p>3. 学習の進め方について理解する。</p>
テーマ1 ・ 自然や社会の	《関数関係を見つける》	<p>ルネサンス期の時代的特質の影響を受けたガリレオは，自然現象を見て「それをありのままに受け止める」という受け身の立場に立たず，自然に働きかけて観測を容易にする状況をつくり出した。この点を学び，様々な実験，観測を通して，関数関係を見つけることを目的とする。</p> <p>さらに，実験結果を数値で表現することの重要性を学ぶ</p>	<p>1. 風船を飛ばして考える。</p> <p>○風船をふくらまして飛ばし，ともなうて変わる量を上げさせる。</p> <p>※図のように風船にストローを付け，つり糸に沿って飛ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体積はどのようにして測定するのか。 ・速さをどのようにして測定するのか。 <p>※測定結果を整理する。</p> <p>2. 遊園地の観覧車について考える。</p> <p>時間の経過とともに何かわるかともなうて変わる量を上げさせる。</p> <p>○例えば，角度と地面からの高</p>

<p>現象を論理的に探る</p>			<p>さに注目する。 観覧車を演習上の点で考えれば、コンピュータを使って図をかき、高さを測定することができる。(コンピュータを利用して学習)</p> <p>3. 落下実験 ○時間と落下距離の関係についてはガリレオの実験に習い、斜面を作って球を転がした落下実験を行う。 ○図のような滑車を何種類も作り、角度をつけたレール上を転がして、ともなうて変わる量を上げさせる。 例えば、滑車の半径と落下する速さに注目した場合、その実験を行い測定する。</p> <p>4. 自分でともなうて変わる量を見附、その量の間で成立する関係を見つける。</p>
<p>テーマ 2 音</p>	<p>《東南アジアの音楽文化》</p>	<p>東南アジアの人々の価値観や宗教観、地域的な特徴とのかかわりから、東南アジア世界で形成された青銅製の楽器と竹製の楽器の特徴、演奏の特徴を探っていく。 (インドネシアのガムラン) インドネシアの人々の宗教観・価値観などとそこから生み出されたガムラン音楽について理解を深める。</p> <p>(東南アジアの自然と音楽) 東南アジアの自然が人々にもたらした恵の一つである竹への人々のおもいや竹の楽器のひびきを味わい、理解を深める。</p>	<p>1. ガムランのひびき ○生活行事や芸能や儀式の中で重要な働きを果たしてきたガムランについて知る。 ○ガムランに使われる楽器とその意味について知る。 ・ゴングは精霊を宿す等、宗教的な行為の数々 ・ガムランに込められた象徴的な意味について知る ・バリ人の世界観、社会組織のあり方と演奏技法や様式の関連について知る。(二次元的な考え方と調和) ○ガムランを鑑賞する。 ○ガムランを模擬演奏する。</p> <p>2. 竹のひびき ○良質の竹の産地である東南アジアについて知る。 ・竹を生活のあらゆる所で活用している人々 ・楽器と民族のアイデンティティ</p>

に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	《アフリカの太鼓文化》	<p>人々の生活と音楽が密着しているアフリカ。その中からアフリカ音楽の特徴ともいえる太鼓に焦点をあて、アフリカ人の太鼓観、社会的な役割、メッセージ機能などアフリカの人々の生活や社会とのかかわりから太鼓文化を探っていく。</p>	<p>○様々な竹の楽器について知る ○竹の楽器の演奏を鑑賞する ・アンクルン ・トンガトン ・クビン ・バリンビン等 ○竹の楽器をつくる ○竹の楽器で実際に演奏する</p> <p>3. バンブーダンス ○バンブーダンスについて知る ○フィリピンの方に教えてもらって実際に踊る。 ※竹の楽器で実際に演奏して、その伴奏にのって踊る。</p>
	《アメリカ大陸の音楽》	<p>課題追究活動へ向けての課題紹介 アメリカ大陸の様々な音楽は先住民の音楽や移民の音楽、その融合など様々な姿を見せる。その様々な音楽を紹介し生徒の興味・関心のある音楽とその音楽が生み出された背景を探る。</p>	<p>1. 人々の生活と太鼓 ○王権と表彰太鼓 太鼓などが王位や王権を表す表彰楽器であることを知る。 ○トーキング・ドラム 多くのアフリカ社会には伝統的に文字というものがなかったため太鼓に言葉を語らせる「太鼓言葉」が発達したことを知る。 ・トーキング・ドラムでのメッセージ伝達の仕組み ・LDで演奏を鑑賞する ・実際に遠くに離れた友達にメッセージを伝達する。 ○口唱歌の発達 ・太鼓の音を言語の音で表す。 ○ポリリズム ・近代西洋のリズム構造との比較により考え方の違いや文化の多様性を知る</p>
		<p>○いろいろな音楽の紹介 ・アメリカンソングの音楽 ・イヌイットの音楽 ・イギリス系住民の音楽（カントリー音楽など） ・フランス系住民の音楽（ケイジャン音楽など） ・アフリカ系住民の音楽（黒人霊歌、ゴスペルなど） ・ポピュラー音楽 ・ジャズ</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・南米（タンゴ，サバ，探検等） ・中米 <p>○興味・関心をもった分野から課題を設定し，歴史的・社会的背景を探りながら理解を深めていくようにする。</p>
テ マ 3 ・ 造 形 に よ る コ ミ ュ ニ ケ	《レオナルドとルネサンス期の芸術文化》	<p>万能の天才といわれるレオナルド・ダ・ヴィンチをとおしてルネサンスの人々の自然や社会事象についてのとらえ方，考え方を学ぶ。特に，科学性，合理性や人間性を重んじたこの時代の人々の意識を社会的な背景，古代ギリシャ・ローマ文化との関連などから理解する。</p>	<p>1. レオナルド・ダ・ヴィンチについて学ぶ。</p> <p>○生涯と実績について学ぶ。</p> <p>○文献やスケッチ・絵画などを調べ，ルネサンス期の人々のものの考え方について理解する。</p>
	《ピカソと20世紀の芸術》	<p>20世紀をピカソとこの時代が生んだ美術文化を通して理解を深め，価値観の多様化平和，人権などの視点から多面的に研究する。</p>	<p>2. ピカソについて学ぶ。</p> <p>○ピカソの生涯と業績について学ぶ。</p> <p>○ピカソの文献やスケッチ・絵画などを調べ，20世紀の美術文化とその背景について理解を深める。</p> <p>3. 二つの空間認識（パースペクティブとキュービズム）について学ぶ。</p> <p>○二つの手法を用いて実際にスケッチをおこない，自分なりの表現を通して，それぞれ空間認識の意味を理解する。</p> <p>○透視図法とキュービズムを対比しながら，空間認識の違いを社会的背景と関連させて探究する。</p>
	《二つの空間認識（パースペクティブとキュービズム）》	<p>科学的なものの見方が確立していくルネサンス期において，レオナルドたちはパースペクティブ（透視図法）を生み出した。この概念は20世紀のピカソが登場するまで西洋文化の空間認識の手法として大きな位置を占めた。ピカソはキュービズムの概念を発案し，ものの見方の既成概念を打ち壊した。</p> <p>この二つのものの見方を比較検討しながら，西洋美術文化とその背景について理解を深める。</p>	
		<p>《漢字の世界～用具との関連を通して文字表現を考える～》</p> <p>文字は，コミュニケーションの手段としては言うまでも</p>	<p>1. 毛筆以前の漢字 ひび割れから彫るという行為への発展について考える。</p> <p>2. 毛筆について ○毛筆の発明によって，漢字は</p>

<p>シ ョ ン</p>		<p>なく最も有効なものである。西欧諸国でのそれは、確実な伝達の道具として用いられてきた。しかし、中国を中心とする地域では、読みやすさという枠を越えて、芸術的な表現でしるされてきた。それはなぜなのか、ここでは“毛筆という用具の使用”といった観点にしぼって考えていきたい。</p>	<p>どのように表現されるようになったのかを考える。 ○実際に、いろいろな素材（草竹・わら・毛糸など）を使って毛筆を作る。その体験を通して、より深く、あるいは広く、毛筆の表現の可能性を探っていく。 3. 書体の変遷について なぜ、漢字には様々な書体があるのか、上記のような視点から考えてみる。</p>
<p>ま と め</p>	<p>学習のまとめをしよう</p>	<p>3つのテーマで学習し、自分が感じたこと、考えたことをまとめることができる。</p>	<p>○「自然や社会の現象を論理的に探る」「音によるコミュニケーション」「造形によるコミュニケーション」の3つのテーマでの学習を通して、感じたこと、考えたことを作文用紙にまとめる。</p>
<p>自 分 の 興 味 ・ 関 心 の あ る こ と を 探 求 し ・ 発 表 し よ う</p>	<p>《課題設定》 《課題追究活動》 《発表会》</p>	<p>興味・関心にもとづいて課題を設定することができる。 設定した課題をもとにいろいろな資料を活用して、追究活動を行うことができる。 課題追求し、まとめたことを発表し合い、高め合うことができる。</p>	<p>1. 3つのテーマを学習する中で興味・関心をもったこと等から社会と文化の相互関係について探求したい課題を設定する。 2. 図書室、コンピュータのインターネットなどの様々な資料から情報を収集し、追究活動に生かしていく。研究分野によっては、実験、調べ、実演などのいろいろな方法で体験していく。 ※個人の活動だけでなく、同じ課題をもつ者同志で小グループを作って活動を行ってもよい。 3. 追究活動の成果はレポートにまとめる。 4. 追究したことを発表する。 ※OHP、ビデオ、カセットコンピュータなどの機器をつかったり、実演をしたりしながら多様な発表を行うようにする。</p>